

3 大隅の植物相

(1) 概 要

大隅半島中南部は、中部大隅において最高峰の大笠柄岳（1237m）を主峰とする中生代白亜紀の地層とその後に入入した花崗岩からなる高隅山系、南部大隅において甬与志岳を最高峰とする新生代第三紀の地層に入入した花崗岩からなる肝属山地、およびそれにはさまれた鹿屋市を中心とする肝属平野と呼ばれるシラス台地（笠之原台地）から形成されている。この地方は雨量指数120~140の地区にあたり、大隅、薩摩半島の南部を通る最寒月（1月）の平均気温8℃、年平均気温18℃の等温線は無霜地帯と重なり、屋久島から北上してソテツ、フカノキ、ギョクシンカなどが分布し、この付近が亜熱帯植生の北限地にあたると思われる。

また、この地区は地形的、気候的にみて植生が非常に豊かであり、昔から多くの人々が植物研究におとずれ、植物名にこの地方名を冠したものが多く、例えば高隅を冠したタカクマキジノオ（イワヘゴ）、タカクマガンピ、タカクマミツバツツジ、タカクマムラサキ、タカクマヒキオコシ、タカクマソウ、タカクマザサ、タカクマホトトギスなど8種類、辺塚を冠したものにヘツカシダ、ヘツカボタンヅル、ヘツカミツバツツジ、ヘツカコナスビ、ヘツカリンドウ、ヘツカニガキ、ヘツカランがあり、佐多を冠したサタソウ、サタツツジ（ヒメマルバサツキ）、サダカズラ（ホルトカズラ）また、大隅を冠したオオスミクジャク、オオスミイワヘゴ、オオスミツチトリモチ、オオスミナツトウダイ、オオスミミツバツツジ、オオスミキヌランなどの植物があり、極めて興味深い植物相を示している。

① 大隅に特産する種及び県下唯一の産地である植物

大隅半島はカンやシイの常緑広葉樹で特徴づけられる暖温帯常緑広葉樹林であり、地形、地質、地史また気候要因によって分化したと考えられる特産種も多くみられる。

キュウシュウイノデ、クワノハエノキ、ミトガンピ、タカクマミツバツツジ、ヒロハドウダンツツジ、ヘツカコナスビ、タカクマムラサキ、オカウツボ、サイゴクガマズミ、タカクマソウ、ウラジロノギク、タカクマザサなどの種がある。

② 西南日本の太平洋型要素

近畿地方南部や中国地方の瀬戸内海斜面および四国との共通種、ソハヤキ地区との共通種も多く分布している。イヨクジャク、オオチャルメルソウ、ヒメシヤラ、コショウノキ、ヒカゲツツジ、アケボノツツジ、オンツツジ、ツルクウゾ、ヤマジオウ、スズコウジュ、トラノオズカケ、ヒロハコンロンカ、ウラジロフジウツギ、ヤマリソウ、ヤマシグレ、ツクシヤブウツギ、モミジカラスウリ、クサヤツデ、コイワカンスゲ、イワカンスゲ、ジングウスゲ、ハマカンゾウ、ホトトギス、ナツエビネ、ハルザキヤツシロランなどがみられる。

③ 北方系要素

サハリン、千島から南下した高山や亜寒帯系の要素で、北海道や本州を経て南下したと考えられている種として、イヌガンソク、ハルニレ、ウナギツカミ、コウモリカズラ、ツタウルシ、イタヤカエデ、シオガマギク、センボンヤリなどがみられる。

④ 大陸系要素

中国北部、東北部、朝鮮半島と共通に分布し、中部内陸や瀬戸内海などの大陸の気候を示す地域を中心に分布するもの（旧満州・朝鮮系）イヌガヤ、サンショウソウ、ツメレンゲ、キハダ、

イヌザンショウ、ツルウメモドキ、アカネスミレ、ウリノキ、ミシマサイコ、ウメガサソウ、シャクジョウソウ、ムラサキセンブリ、ムラサキ、ゴマノハグサ、ツルニンジン、チョウセンガリヤス、オギ、コオニユリ、シオデ、ヤマサギソウ、ヒトツボクロ、セイタカスズムシソウなどがみられる。

ヒマラヤ、中国大陸温帯地域に関係をもち、日本列島の太平洋海岸側にかたよった分布をするもの（ヒマラヤ、中国大陸系）アカメヤナギ、イヌシデ、クヌギ、コナラ、コアカソ、イワガネ、オオバウマノスズクサ、ホオノキ、カナクギノキ、シロモジ、マルバハギ、クズ、コクサギ、コバンノキ、シラキ、アオハダ、タラヨウ、ナナメノキ、ツリバナ、イソノキ、フヨウ、クマノミズキ、ミズキ、コムラサキ、カイジンドウ、トラノオスズカケ、イヌアワ、キバナチゴユリ、アマドコロ、シャガなどがみられる。

⑤ 南方系要素

南西諸島、台湾、南中国やマレーシアの要素など大隅半島南部は南方系要素に富み、亜熱帯要素を多分に含み、ここを北限とする種も多い。ナンカクラン、ヒモラン、ヒメムカデクラマゴケ、リュウビンタイ、オニコケシノブ、リュウキュウホラゴケ、リュウキュウコケシノブ、モエジマシダ、ヘゴ、クサマルハチ、ヘツカシダ、クワレシダ、ヒロハノコギリシダ、イヌタマシダ、ニセシロヤマシダ、アツイタ、クシノハシダ、ホコザキウラボシ、イワヤナギシダ、ソテツ、サタソウ、ヤッコソウ、キイレツチトリモチ、スナヅル（大泊 絶滅?）、ギョボク、カワゴロモ、ショウベンノキ、シマウリノキ、フカノキ、サクララン、オキナワシタキヅル、ノアサガオ、ホルトカズラ、マルバハダカホオズキ、ヘツカニガキ、シラタマカズラ、ケカラスウリ、キダチハマグルマ、オオササガヤ、ホソバチヂミザサ、シマチカラシバ、リュウキュウチク、オオアブラガヤ、クワズイモ、ホウライツユクサ、シマツユクサ、ビロードボタンヅル、キキョウラン、カラスギバサンキライ、ハマサルトリイバラ、タマザキヤマビワソウ、アオノクマタケラン、クマタケラン、ゲットウ、カゴメラン、シマシユスラン、ツユクサシユスラン、ヤクシマネツタイラン、ヒメトケンラン、イモネヤガラ、ヘツカランなどがみられる。

(2) 大隅地区の植物相

① 高隅山系

高隅山系は大隅半島の北西に位置し、主峰の大篋柄を通る稜線は南北に走り、北はセツ岳、南は小篋柄岳を径て妻岳に至っており、稜線は2つに分岐し1つは平岳、横岳を径て白山に至るものと、他の1つは南東に走り御岳を径て、笠之原台地に至っている。

高隅山系の地層は古く中生層（四万十層群）の粘板岩、砂岩などこの層を貫く花崗岩からなっており、多種の植物が自生している。頂上付近はモミと分布南限のブナ林があり、尾根筋にはミズナラ（南限）、アカガシなどが自生し、林内にはスズタケがみられる。主な自生種をあげれば、マツバラシ、イヌトクサ、ナンカクラン、ヒモラン、ヒメタチクラマゴケ、クラマゴケ、オハナワラビ、リュウビンタイ、カネコシダ、オニコケシノブ、リュウキュウコケシノブ、キヨスミコケシノブ、ホンダウシダ、ニシノコハチジョウシダ、モエジマシダ、ヤワラハチジョウシダ、クサマルハチ（北限）、ホソバカナワラビ、ホソバシケシダ、ホソバイヌワラビ、タニイヌワラビ、ヒロハイヌワラビ、ミヤジマシダ、シラガシダ、イワヤシダ、シロヤマシダ、コクモウクジャク、イヌイワヘゴ、ベニシダ、ヌカイタチシダ、ムラサキベニシダ、ヨゴレイタチシダ、イヌタマシダ、イブキシダ、オサシダ、シシガシラ、ホウビシダ、オオイワヒトデ、シンテンウラボシ、ミ

ヤマノキシノブ, オオクボシダ, イチイ, カヤ, イヌガヤ, モミ, アカマツ (南限), ヒメコマツ (南限), クロマツ, ヒトリシズカ, ヤシャブシ, クマシデ, イヌシデ, アカシデ, ブナ (南限), ミズナラ (南限), ツブラジイ, スダジイ, アカガシ, ヒメウワバミソウ, オオサンショウソウ, マツグミ, ヤッコソウ, ツチトリモチ, キイレツチトリモチ, ホオノキ, ヤマグルマ, キンチャクアオイ, ハナタデ, コバノボタンヅル, メギ, シキミ, シロモジ, ヒメクロモジ (南限), チダケサシ, ノリウツギ, マンサク, ナンキナナカマド, ナナカマド, ナガバノモミジイチゴ, ユクノキ, ユズリハ, ヤマウルシ (南限), ツタウルシ, アオハダ (南限), イソノキ, シタキツルウメモドキ, コミネカエデ (南限), ウリカエデ (南限), コハウチワカエデ, ウリハダカエデ, オオクマヤナギ, ナツツバキ (南限), ヒメシヤラ, ヒメスミレ, シコクスミレ, シマサクラガンピ, クマヤマグミ, トチバニンジン, イモノキ (南限), ハナイカダ, リョウブ, ミヤマキリシマ (南限), サイゴクミツバツツジ, タカクマミツバツツジ, ウンゼンツツジ (九州唯一), タンナサワフタギ, ナタオレノキ, アルバアオダモ, コケリンドウ, ヘツカリンドウ, ナンゴクカモメヅル, トキワカモメヅル, オオルリソウ, オオムラサキシキブ, タカクマヒキオコシ, オオマルバノテンニンソウ, ハルノタムラソウ, ヤマジオウ, シコクママコナ, ゴマノハグサ, シシラン, ハエドクソウ, シラタマカズラ, イナモリソウ, ヤマシグレ, オトコヨウゾメ, モミジガサ (南限), ツクシコウモリ, ツクシカシワバハグマ, キクバヒヨドリ, モミジコウモリ, ノマアザミ, メナモミ, サケバヒヨドリ, アキノキリンソウ (南限), ハイチゴザサ, ミヤコザサ, タカクマザサ (特産), テキリスゲ, アオバスケ (南限), ヒメタマツリスゲ (南限), サツマスケ, シラコスゲ (南限), ヤマゴンニヤク, ナンゴクウラシマソウ, ヤブラン, ナガバジャノヒゲ, タカクマホトトギス, ナガバシュロソウ, ツユクサシュスラン, マメツタラン, ジガバチソウ, カゴメランなどが自生している。

高隈山系の北方には鹿児島大学農学部の演習林があり, 演習林内にはいろいろな珍しい植物が自生している。ニシノコハチジョウシダ, ウラボシノコギリシダ, ヒカゲワラビ, ミドリカナワラビ (南限), セイタカシケシダ, オニヒカゲワラビ, ワカナシダ (南限), ホウノカワシダ, オオスミイワヘゴ, キュウシュウイノデ, ツクシノキシノブ, キミズモドキ, アラゲサンショウソウ, ミヤマタニソバ, シンミズヒキ, オキナグサ, ゴヨウアケビ, ホオノキ (南限), モウセンゴケ, ヤマネコノメソウ, ヤマイバラ, ヒメバライチゴ, コクサギ, シタキツルウメモドキ, ツリフネソウ, ヤブニンジン, ハヤトミツバツツジ, ウンゼンツツジ, ミヤマタゴボウ, トキワカモメヅル, ヤマルリソウ, ハグロソウ, コバノジュズネノキ, ツルギキョウ, マルバテイショウソウ, メナモミ, ヒメカンスゲ, サツマスケ, ヒメシラスゲ, アキカサスケ, セキショウ, ヤブラン, ナガバジャノヒゲ, ナヨマンテマ, ダイサギソウ, ハツシマランなどが自生している。

② 志布志枇榔島の植物

志布志枇榔島は志布志町の南約5km, 有明湾の北辺に位置し, ビロウの自生地として知られる。島の周辺は3.2kmあり, 地質は第三紀層に属している。主な植物としてはリュウビンタイ, フモトシダ, オオバノイノモトソウ, アマクサシダ, ハチジョウシダ, ハマホラシノブ, ホソバカナワラビ, カツモウイノデ, オニヤブソテツ, シケシダ, ヒロハノコギリシダ, シロヤマシダ, コクモウクジャク, クシノハシダ (北限), ケホシダ, オオタニワタリ, オオイワヒトデ, マメツタ, スダジイ, マテバシイ, ムクノキ, オニヤブマオ, イワガネ, センニンソウ, ムベ, コウシュウウヤク, ヤブニッケイ, ハマビワ, バリバリノキ, タブノキ, バクチノキ, ノイバラ, テリハノイバラ, ナツフジ, クズ, ハマエンドウ, クロガネモチ, ヤブツバキ, フカノキ, モクタチバ

ナ、ネズミモチ、ハマアザミ、ノジギク、オニタビラコ、ウドカズラ、シマイズセンリョウ、サカキカズラ、クワズイモ、クサスギカズラ、ケカモノハシ、ハチジョウススキ、コウボウシバ、カラスビシャク、ハマサルトリイバラ、アオノクマタケラン、ユウコ克蘭（北限）、キイレツチトリモチなど約40種が自生している。

③ 甫与志岳の植物

甫与志岳は大隅半島南部において最高峰967.9mの山岳である。見事な常緑広葉樹林があったが伐採され、山麓はスギ、ヒノキの植林になっており、見るかげもなく往時をしのぶものは少ない。また、頂上付近のモミの大木も、近年、酸性雨の影響(?)か枯木が立っている状態である。

スギラン、ホソバトウゲシダ、オニコケシノブ、キヨスミコケシノブ、コウヤコケシノブ、リュウキュウコケシノブ、ホングウシダ、アマクサシダ、ヒメウラボシ、ホソバカナワラビ、コバノカナワラビ、オオカナワラビ、シラガシダ、シケシダ、ヒメノコギリシダ、ナチクジャク、トウゴクシダ、ムラサキベニシダ、タニヘゴ、アツイタ、ジュウモンジシダ、ハリガネワラビ、シシガシラ、ミツデウラボシ、イヌガヤ、モミ、クマシデ（南限）、イヌシデ、アカガシ、ヒメウワバミソウ、キンチャクアオイ、ヤマグルマ、シロモジ、ヒメクロモジ（南限）、イワボタン（南限）、ゴトウヅル、ナンキンナナカマド（南限）、タチバナ、ユズリハ、ツクシイヌツゲ、ウメモドキ、オオコマユミ、モクレイシ、コバノクロヅル、ウリハダカエデ、コハウチワカエデ、オオクマヤナギ、ヒメシャラ、ナガサキオトギリ、アデク、ヤマボウシ、リョウブ、ベニドウダン、ヒロハドウダンツツジ（九州唯一の産地）、オオスミミツバツツジ、アセビ、サイゴクミツバツツジ、アケボノツツジ、ホソバヤブコウジ、モロコシソウ、タンナサワフタギ、ハイノキ、ホウライカズラ、ナンゴクカモメヅル、オオカモメヅル、タカクマヒキオコシ、ヤマジオウ、ミツデコトジソウ、ハルノタムラソウ、シソバタツナミ、マルバノホロシ、タニワタリノキ、ヤマムグラ、コバノガマズミ、コツクバネウツギ、ヒゴダイ、キクバヒヨドリ、ツクシカシワバハグマ、ササキビ、シマスズメノヒエ、コイワカンスゲ、ヒメジュズスゲ、ヒメナベワリ、キバナチゴユリ、ツクバネソウ、アマドコロ、オモト、タカクマホトトギス、シロシャクジョウソウ、ルリシャクジョウソウ、ナギラン、クマガイソウ、オサラン、アケボノシユスラン、シユスラン、フウラン、ホシケイラン、ジンバイソウなどが自生している。

④ 稲尾岳の植物

稲尾岳は959mの山岳であり、花崗岩で形成されている。山頂付近にはモミ林が残っているが、8合目垂たりまでは伐採され原生林は谷沿いに局地的に残っているだけである。山麓はスギ、ヒノキの植林となっているが、ここを南限とする植物が多く、分布的に面白い山岳である。

ホソバトウゲシバ、キヨスミコケシノブ、リュウキュウコケシノブ、ホングウシダ、ヤクカナワラビ、カラクサイヌワラビ、ホソバイヌワラビ、ツクシイヌワラビ、タニイヌワラビ、シラガシダ、ヒロハノコギリシダ、ホソバシケシダ、キヨタキシダ、イワヘゴ、ツクシイワヘゴ（南限）、マルバベニシダ、ムラサキベニシダ、クマワラビ（県本土南限）、オクマワラビ（県本土南限）、イノデモドキ、イノデ、ジュウモンジシダ、ヒメハシゴシダ、ハリガネワラビ、ヤワラシダ（県本土南限）、クルマシダ、オオクボシダ、ヒメサジラン、カヤ、イヌガヤ、モミ、アカガシ、ホソバヤブマオ、ヒメウワバミソウ、キンチャクアオイ、フシダロ、サワハコベ、ヤマグルマ、オキナグサ（南限）、シキミ、シロモジ（南限）、クサアジサイ、ゴトウヅル、イワガラミ、ダイコンソウ（南限）、ヒメバライチゴ、ヤブツルアズキ（南限）、ユズリハ、シラキ、ツタウルシ、タラヨウ、ウメモドキ（南限）、ツルウメモドキ、オオコマユミ（南限）、ツルマサキ、モクレイシ、

コバノクロヅル、イロハモミジ（南限）、ウドカズラ、マタタビ（県本土南限）、ヒメシヤラ、ナガサキオトギリ、アデク、ヒメチドメ、ヤマボウシ、リョウブ、シロドウダン、サイゴクミツバツツジ、サクラツツジ、ホソバヤブコウジ、ナガエコナスビ、ヘツカコナスビ、シロバイ、カンザブrouノキ、ハイノキ、ナタオレノキ、ホウライカズラ、アケボノソウ（南限）、ツルガシワ（南限）、オオカモメヅル、ムラサキ、ヤマジオウ、ミツデコトジソウ（南限）、ハルノタムラソウ、シソバタツナミ、マルバノホロシ、シシラン、ヤマムグラ、コバノガマズミ、キクバヒヨドリ（南限）、ツクシカシワバハグマ、キンバイザサ、ヒナノシャクジョウ、マメツタラン、キエビネ、ナギラン、ベニシユスラン、アケボノシユスラン、カゴメラン、シマシユスラン（北限）、ムカゴトンボ、ヤクシマアカシユラン、アオフタバラン、ムカゴサイシン、ヤクシマヒメアリドウシランなどが自生している。

⑤ 野首岳の植物

野首岳は根占断層（カルデラ崖）地帯にある最高峰で、屏風を立てたような花崗岩の山岳であり、分布の南限をなすものが多くみられる。

クラマゴケ、ウチワゴケ、キヨスミコケシノブ、アオホラゴケ、ホングウシダ、ホウライイヌワラビ、タニイヌワラビ（南限）、ホソバシケシダ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ベニシダ、オリヅルシダ、ジュウモンジシダ、ホウビシダ、シシラン、ハルニレ、キンチャクアオイ、カワラナデシコ、フシグロ、ヤマグルマ、ウスゲクロモジ（南限）、サワアジサイ（南限）、オオチヤルメルソウ（南限）、ダイモンジソウ、ワタゲカマツカ（大隅半島南限）、カワラサイコ、リュウキウバライチゴ、ヒメバライチゴ、キハギ（南限）、オオマルバハギ（南限）、ハネミイヌエンジュ（南限）、コクサギ（南限）、アオジクユズリハ、シラキ、ツタウルシ、シタキツルウメモドキ（南限）、ツルマサキ、コバノクロヅル、コハウチワカエデ、ヒメシヤラ、ナガサキオトギリ、タカクマガンピ、シマサクラガンピ、ミトガンピ（サクラガンピまたはシマサクラガンピ×イヌガンピ本県唯一の産地）、キガンピ（大隅半島南限）、ヤマボウシ、リョウブ、シロドウダン（南限）、ベニドウダン（南限）、アセビ、ヒカゲツツジ、オオスミミツバツツジ、サイゴクミツバツツジ、タカクマミツバツツジ、ホソバヤブコウジ、ナガエコナスビ、ヘツカコナスビ、コケリンドウ、ヤマルリソウ（南限）、ヤマトウバナ（県本土南限）、タカクマヒキオコシ（南限）、ヤマジオウ（南限）、オオマルバナテンニンソウ（南限）、コバナツルウリクサ、オカウツボ（県下唯一の産地）、イワタバコ（大隅半島南限）、イナモリソウ（南限）、コバノガマズミ、カノコソウ（南限）、ヒメガンクビソウ（大隅半島南限）、ウラジロノジギク（県下唯一の産地）、ツクシカシワバハグマ（南限）、ヒメカンスゲ、アゼナルコスゲ、テキリスゲ（南限）、サツマスケ、アブラシバ、ヤマズズメノヤリ、ヤマラッキョウ、オオナルコユリ（南限）、ヒメドコロ（県本土南限）、サイハイラン（南限）、セッコク、クモキリソウ（南限）、ハツシマラン、ホシケイラン、イイヌマムカゴなどが自生している。

⑥ 田代・花瀬の植物

田代町の南側を雄川が流れ、川原池野地区では、川床が溶結凝灰岩の基石が畳をしきつめたようになっている。名勝地として知られ、夏期にはキャンプ地として多くの人々のいこいの場所にもなっている。サイゴクホングウシダ、ヤワラハチジョウシダ、サツマハチジョウシダ、オオカナワラビ、シラガシダ（南限）、ホソバヤブソテツ、オオスミクジャク、ニセコクモウクジャク、イワヘゴ、マルバベニシダ、クロミノイタチシダ、コモチシダ（南限）、ハヤマシダ、ナギ、イヌシデ（南限）、ツブラジイ（大隅半島南限）、ハルニレ、イヌヤブマオ、カワゴロモ、タシロカ

ワゴケソウ、ヒメレンゲ、クサアジサイ（南限）、サワアジサイ、シコクチャルメルソウ、イワガラミ、ゴトウヅル、ツルキジムシロ、ヒメバライチゴ、オオバナヌスビトハギ、イヌハギ（南限）、ハネミイヌエンジュ、ツゲモチ、シタキツルウメモドキ、ツリフネ（南限）、オオクマヤナギ（南限）、ナンゴクオオクマヤナギ、ネコノチチ（京岳(田代)南限）、ウリノキ（南限）、アデク、ヒメノボタン、ミズタマソウ（南限）、ウド（南限）、ハリギリ（県本土南限）、シシウド（南限）、セントウソウ、ハナウド（南限）、コバノハナイカダ、ミヤマタゴボウ、ヘツカコナスビ、カンザブrouノキ、マルバアオダモ、アケボノソウ、ヘツカリンドウ、オオルリソウ、イヌトウバナ（南限）、スズコウジュ、ケミヤマナミキ、マルバノホロシ、ナガバノハエドクソウ（南限）、タニワタリノキ、ツクシヤブウツギ、クサヤツデ、ヤナギアザミ（南限）、ハンカイソウ、ハバヤマボクチ（南限）、ハイチゴザサ、イヌアワ（南限）、ゴキダケ、ナルコスゲ、シバスゲ、ジングウスゲ、アブラガヤ、シライトソウ、ウバユリ、ツユクサシスラン、カシノキランなどが自生している。

⑦ 佐多辺塚周辺の植物

マツバラシ、ヒモラン、ハイホラゴケ、リュウキュウホラゴケ、セイタカヒメワラビ（北限）、エダウチホングウシダ、ヤワラハチジョウシダ、ヤクカナワラビ、ヘツカシダ、ノコギリシダ、ニセシロヤマシダ、トウゴクシダ、ナンカイイタチシダ、ヌリトラノオ、ケホシダ、アマモシシラン（北限）、サタソウ、キミノセンリョウ、イチイ、ニオウヤブマオ、サンショウソウ、ミヤマミズ、ヤッコソウ、キンチャクアオイ、フシグロ、コウシュウウヤク、ヒロハヤブニッケイ（北限）、シママンネングサ、リュウキュウバライチゴ、マツカゼソウ（南限）、ハマセンダン、ナナメノキ（大隅半島南限）、オオバボンテンカ、ボンテンカ、ミズタマソウ（南限）、ミズキ（南限）、サタツツジ、シマイズセンリョウ、ミヤマタゴボウ（南限）、モロコシソウ、ヘツカリンドウ、サクララン、オキナワシタキヅル、ツルモウリンカ、アオイゴケ、ノアサガオ、メジロホオズキ、ヘツカニガキ、ハマアザミ、ノジギク、リュウキュウチク、クワズイモ、ホウライツユクサ、キキョウラン、ハマカンゾウなどが自生している。

⑧ 佐多岬及びその周辺の植物

本土最南端の佐多岬を北限とする多数の南方系の植物もみられ、亜熱帯の様相を示している。

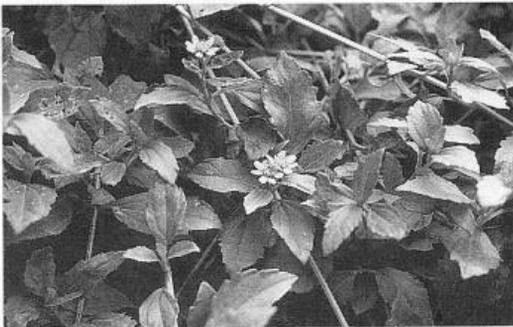
ヘゴ、オニカナワラビ、ホソバカナワラビ、オニヤブソテツ、ヨゴレイタチシダ、ケホシダ、オオイワヒトデ、コウラボシ、シシラン、ソテツ、サタソウ、ウバメガシ、ケウバメガシ、ヤブマオ、オニヤブマオ、ナガバヤブマオ、イワガネ（大隅半島南限）、キイレツチトリモチ、ホソバアカザ、ツルナ、ヒメハマナデシコ、シロバナヒメハマナデシコ、カワラナデシコ、ケフシグロ、ケキツネノボタン、コウシュウウヤク、マルバニッケイ、カナクギノキ（大隅半島南限）、シマキケマン、ギョボク、カラクサナズナ、ツメレンゲ（南限）、シママンネングサ、コゴメマンネングサ、リュウキュウバライチゴ、ハカマカズラ、ツルメドハギ、シマエンジュ、ハマササゲ（北限）、ヤブフジ（南限）、フユザンショウ、オオスミナツトウダイ、コバンノキ（大隅半島南限）、マユミ（大隅半島南限）、クマヤナギ（南限）、カラスノゴマ、ハマボウ、サキシマフヨウ、オオバボンテンカ、ツクシスミレ、ナガバノタチツボスミレ（南限）、クストイゲ（大隅半島南限）、キブシ（南限）、タカクマガンピ、マルバアキグミ、シマウリノキ（北限）、サタツツジ、シマイズセンリョウ、モロコシソウ、ウラジロフジウツギ、ホルトカズラ（北限）、イワダレソウ、ヤマジソウ（南限）、コシオガマ（県本土南限）、トラノオスズカケ（南限）、タマザキヤマビワソウ（北限）、ハエドクソウ（南限）、タニワタリノキ、ニワトコ（県本土南限）、ケ

カラスウリ（北限）、キキョウ（県本土南限）、オイランアザミ、ヒメヤマアザミ（南限）、ハマベノギク、オオハマグルマ、ヘンリーメヒシバ、シマチカラシバ、ギボウシノ（南限）、リュウキュウチク、コササキビ、メカルカヤ（南限）、カサスゲ（南限）、オキナワジュズスゲ、カタスゲ、チャイトスゲ（南限）、オオアブラガヤ、クワズイモ、ホウライツユクサ、ニラバラン、ナギランなどが自生している。

上記以外の地域で特記すべき植物として、鹿屋市近郊には、ツクシサクラバラ、ノジトラノオ（南限）、コウモリカズラ（南限）、マイズルテンナンショウなどがあり、大根占の海岸には、マルバヤブニッケイ（北限）、マルバニッケイ、オオヒナノウスツボ（南限）、カイジンドウ（南限）、ヒゼンマユミ、シデシャジン（南限）、ノコンギク（南限）、クワノハエノキがあり、クワノハエノキは大隅半島においては唯一の産地である。また、丸峯地区にはウバメガシが自生しており、辻岳にはシマシシラン（北限）、シシウド（南限）、ウド（南限）、ツチグリ（南限）、フジカンゾウ（南限）、コマユミ（大隅半島南限）、ヤナギアザミ（南限）があり、大中尾には、ヒメノダケ（南限）、ハルニレ（南限）、イナカギク（南限）がみられ、内之浦ではアマモシシラン（北限）もみられる。

参考文献

- 大野 照好 1992 鹿児島の植物 春苑堂出版 50-52, 114-115
 迫 静男 1989 鹿児島のすぐれた自然 財団法人 鹿児島県公害防止協会 99-113
 富山 重義 1964 南大隅植物目録予報
 初島 住彦 1964 鹿児島の自然 鹿児島県理科協会 50-56
 初島 住彦 1975 琉球植物誌 沖縄生物教育研究会 1-37
 初島 住彦 1986 改訂 鹿児島県植物目録 鹿児島植物同好会
 宮脇 昭編 1984 日本植生誌—九州— 至文堂 64-74 (執筆者：川越良昭)



キダチハマグルマ



ヒロハドウドンツツジ



ホソバヤブコウジ

4 大隅の植生

I 植生の概要

大隅半島は、北部に漸次低下して日向山地や霧島火山群に連なり、北西部に位置する高隈山塊と南部の肝属山地および中央部の俗称シラスといわれる曾於丘陵地帯に区分される。

高隈山塊は主峰の大篋岳(1236.8m)をはじめ御岳(1181.7m)、横岳(1094m)などの峰が連なっている。海拔1000mを越す稜線帯には日本における南限のブナ林が発達している。山麓帯から中腹部にかけての山体部の樹林の多くは伐採されてスギやヒノキなどの植林地となっており、自然林は稜線沿いや各地に部分的に残存しているに過ぎない。これらの自然林は山麓帯のタブ林に続いてシイ林が広い面積を占めている。高山地帯はイスノキウラジロガシ林やアカガシ林に続いてモミを主とする針葉樹を含む常緑広葉樹林または針葉樹林となり、稜線沿いはブナを主とする落葉樹林となっている。山頂部には山頂性風衝低木材が発達しており、山頂性の草原も見られる。

南部の肝属山地は北東から南西へ国見岳(886.5m)、黒尊岳(908.5m)、甫与志岳(967.9m)、六郎館岳(754.0m)、八山岳(940.5m)、荒西岳(833.7m)、稲尾岳(930.0m)、枯木岳(959.0m)、木場岳(890.8m)などが連なっている。これらの肝属山地一帯はかつては秘境といわれ、鬱蒼とした原生の常緑樹林におおわれていた地帯であった。ところが現在ではこれらの自然林の多くは伐採されてスギ・ヒノキ植林地と化し、自然生の常緑広葉樹林は部分的に局所的に残存しているに過ぎない。また、最近、これらの山地の山頂稜線帯においてモミの大木の立ち枯れが異常に多いのが目につく、酸性雨によるものか異常気象によるものか原因はわからないが憂慮される。

中央部のシラス台地はよく解析されて谷状地形が発達している。台地の多くは農耕地として利用されているが、台地や台地斜面にはタブ林やコジイ林、マテバシイ林およびスギ・ヒノキ植林地などが発達している。平地や谷状地の多くは水田として利用されており、湿地植物群落の発達も見られる。

沿海地は黒潮の影響を強く受けて温暖多湿な気候に恵まれており、南方亜熱帯性の植物が豊富で、ソテツ群落やビロウ群落などのような亜熱帯性の植物群落の発達も見られる。志布志湾など海岸地帯には砂丘が発達し、人工的に植林され管理されたクロマツ林も発達している。

II 植物群落(植生)

A 落葉広葉樹林域(ブナクラス域)

落葉広葉樹林域は高度的には常緑広葉樹林域の上限に接しておよそ1000m以上の高地に成立している。しかし、局地的には方位や傾斜、地形条件などに対応して発達するのでやや下降して発達していることもある。大隅半島では1000mを越す高山地は高隈山系だけであり、落葉広葉樹林域(ブナクラス域)に属する植物群落は極めて少ない。

1. ブナ群落

高隈山系のブナ林は霧島山系や紫尾山とともに日本における分布の南限帯をなしている。九州のブナ林は太平洋側のスズタケブナ群団に包括されている。高隈山系のブナ林は霧島山のブナ林とともにコハウチワカエデ、シラキ、シロモジ、カナクギノキを標徴種とするシラキブナ群集のハイノキ亜群集とされている。ハイノキ亜群集はハイノキやシキミ、アカガシ、ソヨゴ、ヤ

ブツバキ、ヤブコウジ、ミヤマシキミなどの常緑樹やモミ、ツガなどの針葉樹が混生しており、常緑広葉樹林域との境界付近に発達していることを示している。高隈山系のブナ林は南限のブナ林でありながらイックン坂では海拔850mあたりまで下降した立地に見られる。アカガシ、イスノキ、サカキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ベニドウダン、ハイノキ、イヌツゲ、アセビ、シキミなどの常緑樹や針葉樹のモミなどの優占率が高い。これは常緑広葉樹林の中にブナが下降して混生したものと見ることもできる。

海拔1100mから1220mあたりの稜線帯の群落ではミズナラ、シロモジ、コハウチワカエデ、ヤマボウシ、ヤマグルマ、ナツツバキ、モミ、ツガ、タンナサワフタギ、ノリウツギ、コバノクロヅル、シラキ、スズタケ、コバノミツバツツジなどが主要構成種として優占的に生育している。

2. 山地低木林群落

高隈山系の大籠岳から御岳にかけての稜線沿いにヤマボウシ、ナツツバキ、クマシデ、タンナサワフタギ、リョウブ、コハウチワカエデ、サイゴクミツバツツジ、ツクシドウダン、ミヤマガマズミ、ミズナラ、コバノクロヅル、ネジキなどの落葉広葉樹にシキミ、アセビ、イヌツゲ、ハイノキ、ヤマグルマ、アカガシ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹が混生するヤマボウシ-サイゴクミツバツツジ優占群落やノリウツギー-コックバネウツギ優占群落などが亜高木状または低木状に発達している。また、スズタケが密生してリョウブ、アセビ、ノリウツギ、コックバネウツギなどの混生する群落も見られる。

3. コメツツジ群落

大籠岳の山頂部の岩上や岩隙地には極めて狭小な矮小低木群落または山地性風衝草原群落が見られる。群落にはネバリノギラン、ヤマホトトギス、ツリガネニンジン、リンドウ、シシガシラ、オトギリソウ、アキノキリンソウ、ツクシコウモリ、ヤマカモジグサ、アオスゲなどの他にシッポゴケやシモフリゴケなどのコケ類が混生している。

B 常緑広葉樹林域 (ヤブクラス域)

九州最南端に位置する大隅半島では海拔およそ1000mを越す高山地は高隈山系を除くと皆無に等しい。従って、高隈山系などにおいて地形、地質、土壌、風衝などの厳しい立地条件下にある山頂稜線帯に発達するごく僅かの落葉広葉樹林域の植生を除く低山地帯は総て常緑広葉樹林域(ヤブツバキクラス域)に属する植生である。南部海岸地帯は温暖多湿な無霜地帯で亜熱帯性の植生も発達している。平地から低山地帯にはタブ林が発達しており、それに続いておよそ海拔450mありたまではシイ林が見られ、それ以上のイスノキ-ウラジロガシ群落に移行する。イスノキ-ウラジロガシ群落帯にはアカガシの優占する群落も見られ、海拔およそ800mあたりからモミを主とする常緑針葉樹林やモミなどの針葉樹とアカガシやイスノキなどの常緑広葉樹が混生する群落が発達している。

1. タブ林

タブ林は常緑広葉樹林の中で最も温暖な平地や低地帯に発達する群落で沖積平地や谷状地、低山地の土壌の発達が良く、湿潤な肥沃地に成立している。しかし、このような立地は古くから農耕地や集落地その他の用地として利用されてきているのでタブ林として残存する林分は極めて少

ない。大隅半島ではアコウタブノキ群落とムサシアブミータブノキ群集が認められる。

(1) アコウタブノキ群落

アコウタブノキ群落は沖縄諸島から奄美諸島、屋久島などに広く分布している亜熱帯の代表的な常緑広葉樹群落で、大隅半島などに局地的に見られる群落はその北限帯に発達する群落の一型であると解される。奄美大島などでは高木層はアコウ、ガジュマル、ハマイヌビワなどのクワ科の植物が優占している。亜高木層にはショウベンノキ、フカノキ、モクタチバナ、サンゴジュなどが、低木層にはポチョウジ、ギョクシンカ、オオバイヌビワ、コウシュウヤク、オオバルリミノキなどが主要な群落構成種となっている。草本層にはアオノクマタケラン、フウトウカズラ、クワズイモ、ノシラン、クロツグなどとオオイワヒトデ、イシカグマ、ホウビカンジュなどのシダ類が生育している。しかし、大隅半島ではガジュマル、ハマイヌビワ、ポチョウジ、オオバイヌビワ、オオバルリミノキ、ホウビカンジュなどの種群を欠いている。従って九州南部のアコウタブノキ群落を種子島や屋久島以南のものと同質のものとして取り扱うことには問題がある。九州におけるアコウタブノキ群落はムサシアブミータブノキ群集の下位群落との見方もある。内之浦町内之浦、岸良、大浦などで調査されたアコウタブノキ群落は高木層はアコウ、タブノキの他にヤブニッケイ、フカノキなどが、亜高木層にはモクタチバナ、バクチノキ、フカノキ、ショウベンノキなどが優占している。低木層はモクタチバナ、ハマビワ、ヤブツバキ、イヌビワ、シマイズセンリョウ、ツルグミなどがみられ、草本層にはホソバカナワラビ、オオイワヒトデ、ヤリノホクリハラン、カツモウイノデ、アオノクマタケラン、テイカカズラ、フウトウカズラなどが優占している。

(2) ムサシアブミータブノキ群集

鹿児島県を主とする九州南部に分布するタブ林は沿海地に断片的に見られるアコウタブノキ群落を除くと、ムサシアブミータブノキ群集にまとめられている。ムサシアブミータブノキ群集はバクチノキ、モクタチバナ、ハマビワ、アオノクマタケラン、ムサシアブミ、ノシラン、オオイワヒトデなどを群集標徴種または区分種としているが、種組成的にはアコウやギョクシンカなど一部の種群が欠けていることを除くとアコウタブノキ群落と構成種群その他において似ている。大隅半島のムサシアブミータブノキ群集については佐多町や内之浦町、田代町、志布志町などの各地で調査された。高木層はタブノキの他にヤブニッケイ、フカノキ、ホルトノキなどが主な構成種で亜高木層はモクタチバナ、フカノキ、ショウベンノキ、タイミンタチバナ、ヒメユズリハ、ヤブツバキなどが常在的に優占している。低木層はシマイズセンリョウ、ネズミモチ、ヤツデ、クロキ、ヒサカキ、イヌビワ、オオムラサキシキブ、モクタチバナ、ハドノキ、センリョウなどとサツマサンキライ、サカキカズラ、テイカカズラ、ツルグミ、フウトウカズラ、シラタマカズラなどの蔓性植物が常在的に見られる。草本層にはアオノクマタケラン、ノシラン、フウトウカズラ、テイカカズラ、ムサシアブミ、クワズイモやオオイワヒトデ、イシカグマ、カツモウイノデ、コバノカナワラビなどのシダ植物が常在的に優占している。

2. シイ林

低山地帯はタブ林に続いて海拔450mあたりまでの広い面積を占めているのはシイ林とその代償植生である。鹿児島県のシイ林は県本土に分布するイズセンリョウースダジイ群団に属するミズバイースダジイ群集と種子島屋久島以南の南西諸島に分布するポチョウジースダジイ群団に属する群落に大別される。

(1) ミミズバイースダジイ群集

県本土のシイ林はミミズバイースダジイ群集にまとめられている。ミミズバイースダジイ群集はミミズバイ、オガタマノキ、ヤマビワ、ヤマモモ、ミサオノキ、ルリミノキ、イチイガシを標徴種としている。高木層はスダジイの他にタブノキ、マテバシイ、イスノキ、ヤブニッケイ、アラカシ、ホルトノキなどが主要な構成種となっている。亜高木層はヤブツバキ、バリバリノキ、ヒメユズリハ、クロキ、ヤマビワ、タイミンタチバナ、サカキ、ミミズバイ、バクチノキ、サザンカ、ヒサカキ、カゴノキ、シロダモなどが、低木層はネズミモチ、イヌガシ、イズセンリョウ、センリョウ、マンリョウ、ハクサンボク、サンゴジュ、アオキ、シャリンバイ、クチナシ、オオムラサキシキブ、ヤツデなどが常在的に優占している。草本層はコバノカナワラビ、カツモウイノデ、キジノオシダ、ヨゴレイタチシダなどのシダ類やヒメアリドウシ、テイカカズラ、ノシラン、ムサシアブミ、ヤブミョウガ、フウトウカズラ、ヤブコウジなどが常在的に生育している。また、沿海地や内陸部、尾根部や谷部、乾燥地や湿潤地など立地の条件によって群落の構成種群や繁殖状況に差がある。

(2) コジイ林

内陸部の丘陵地や低山地にはスダジイに変わってコジイの優占するシイ林が発達している。曾於郡と肝属郡にまたがる中央丘陵地帯にはコジイ林が各地に見られる。高木層や亜高木層にはマテバシイ、コバンモチ、アラカシ、タブノキ、ヤブツバキ、イスノキ、タイミンタチバナ、ヒメユズリハ、カクレミノ、ヤブニッケイなどが混生している。低木層はヒサカキ、カクレミノ、ハクサンボク、オオムラサキシキブ、イズセンリョウ、アオキ、サザンカ、ヤマビワ、ヤツデなどが優占し、草本層にはコバノカナワラビ、ホソバカナワラビ、ミゾシダ、シュンラン、ツルコウジ、フユイチゴ、コゴメスゲ、ツワブキ、ヤブミョウガなどが常在的に生育している。コジイ林も植生学的にはミミズバイ、オガタマノキ、ヤマビワ、ヤマモモ、ミサオノキ、ルリミノキ、イチイガシを標徴種とするミミズバイースダジイ群集に包括される。

3. マテバシイ林

マテバシイは常緑広葉樹林域の樹林に広く分布する樹種で、特にシイ林の主要群落構成種である。沿海地や急傾斜地などの乾性的な立地では極めて高い優占度で生育していることが多い。また、絶えず繰り返し伐採などの人的干渉を受けてきた集落地付近の林地にはマテバシイが純群落状に発達した林分が多く見られる。これはもともとミミズバイースダジイ群集であった林分が頻繁な伐採により、マテバシイの萌芽を発生しやすい性質のため他の樹種を押さえて純林化したものと考えられる。群落の構成種として高木層や亜高木層にはミミズバイ、ヤマビワ、タイミンタチバナ、ヤブツバキ、アラカシ、コバンモチ、ヤブツバキ、タブノキ、スダジイ、カクレミノ、ヤブニッケイなどが見られ、低木層にはハクサンボク、クチナシ、アオキ、ヒメアリドウシ、センリョウ、サザンカ、ネズミモチ、ヤツデなどが生育している。草本層の発達はあまり良好ではないが、テイカカズラ、ツワブキ、コバノカナワラビ、ハナミョウガ、オオカグマなどが生育している。マテバシイ林はすべて代償植生（二次林）として取り扱われている。しかし、辺鄙な沿海地や急傾斜地などに成立している群落については人的干渉を受けてきたとは考えられず検討の余地がある。

4. アラカシ林

アラカシ林は溪谷沿いの傾斜地や崩壊地斜面などに帯状に発達している。アラカシの優占度が高く、高木層や亜高木層にはタブノキ、スダジイ、ナナメノキ、ハゼノキ、タイミンタチバナ、ヒメユズリハ等が混生している。低木層にはシャリンバイ、ヒサカキ、マンリョウ、ハクサンボク、クロキ、クチナシ、ヤツデ、イズセンリョウなどが、草本層はツワブキ、アマクサシダ、ホシダ、ミゾシダ、エダウチチヂミザサなどが生育している。アラカシ林はミミズバイースダジイ群集の標徴種や主要群落構成種が多く、溪谷沿いや崩壊地などの不安定な立地にミミズバイースダジイ群集の代償植生として発達したものと見られる。中国地方ではナナメノキ、シャシャンボを標徴種や区分種としてナナメノキーアラカシ群集が認められているが、大隅半島のアラカシ群落がこの群集に含まれるか不明である。

5. イチイガシ群落

スダジイ林やコジイ林の成立する地域の溪谷沿いの傾斜地、河岸段丘地、溪谷沿いの沖積地などの腐植質が多く、適潤な立地にイチイガシを含むコジイ林が断片的に発達している。県北部のイチイガシを含むコジイ林についてはルリミノキ（サツマルリミノキ）、カンザブrouノキ、シロバイを標徴種としてルリミノキーイチイガシ群集としてまとめられている。大隅半島では財部町、岩川町、松山町、高隈山、内之浦町などで調査された資料から高木層はコジイ、イチイガシやウラジロガシ、タブノキ、アラカシ、ツクバネガシなどが優占的に混生している。亜高木層はヤブツバキ、バクチノキ、ショウベンノキ、カクレミノ、ナナメノキ、シロダモ、サカキ、クロキ、サザンカなどが優占している。低木層はヒサカキ、ネズミモチ、シキミ、アオキ、イヌガシ、ホソバタブ、ヤツデ、ヤマビワ、イズセンリョウなどが常在的に生育している。草本層にはコバノカナワラビ、ハナミョウガ、ミゾシダ、フユイチゴ、ヤマイタチシダ、フウトウカズラ、オオイワヒトデ、ヤリノホクリハラン、ヤブコウジなどが常在的に優占している。

6. イスノキーウラジロガシ群落

イスノキは低山地から高山地にわたる常緑広葉樹林の主要な構成樹種として広く分布している。ウラジロガシはやや高山地に分布するが、湿潤な谷沿いでは低山地まで下降して分布することもある。イスノキやウラジロガシを主とする群落は海拔約450~900m付近までの山地にバリバリノキ、ハイノキ、サンゴジュ、イスノキを標徴種とするイスノキーウラジロガシ群集にまとめられている。高温多湿な大隅半島南部の山林はイスノキやウラジロガシなどの巨木が林立する原生林におおわれた秘境といわれた地域であった。それらの原生林の多くは伐採されてスギやヒノキの植林地となっけしまい、現在では木場岳や稲尾岳、荒西山、八山岳などに部分的・断片的に残存しているに過ぎない。高隈山系においてもこのような原生林の多くは消滅してしまっている。高木層はイスノキやウラジロガシの他にアカガシ、スダジイ（コジイ）、タブノキ、モミ、ヒメシャラ、ヤブニッケイなどが常在的に優占している。亜高木層にはヤブツバキ、サカキ、ヒメユズリハ、カクレミノ、サザンカ、ホソバタブなどが優占している。低木層はシキミ、ヒサカキ、イヌガシ、ミヤマシキミ、ハイノキ、ネズミモチ、サンゴジュ、センリョウ、マンリョウ、イヌツゲ、クロキなどが常在的に見られる。草本層はコバノカナワラビ、キジノオシダ、フユイチゴ、テイカカズラ、ヒメアリドウシ、ハナミョウガ、ヤブコウジなどが優占的に常在している。

7. ホソバタブ群落

ホソバタブの優占する群落について高隈山の675m地点と甫与志岳の650m地点で調査された。高木層はホソバタブの他にイスノキ、ウラジロガシ、スダジイ、タブノキ、マテバシイなどが優占している。亜高木層にはサカキ、ヒサカキ、シロダモ、ヤマボウシ、ヤブツバキ、サザンカ、サンゴジュなどが、低木層にはシキミ、イヌガシ、センリョウ、イヌツゲ、ミヤマシキミ、ネズミモチ、イズセンリョウ、アオキ、ハイノキ、マンリョウなどが生育している。草本層はコバノカナワラビ、ヒメアリドウシ、エダウチチヂミザサ、フユイチゴ、ヤブコウジ、ミゾシダ、オオキジノオなどが優占している。ホソバタブ群落は、海拔450~800m付近のイスノキウラジロガシ群集の発達する地帯の溪谷沿いや斜面下部の腐植質の多い湿度の高い立地に、イスノキウラジロガシ群集やミズバイースダジイ群集などの代償植生として二次的に発達する群落である。

8. アカガシ群落

イスノキウラジロガシ群集の発達する高山地域の450~900mの範囲を中心にしてアカガシの優占する群落が発達している。大隅半島では高隈山系や肝属山地の甫与志岳、八山岳、荒西山、六郎館岳、稲尾岳、木場岳などの山頂帯に高木林または亜高木林に発達した林分が見られる。高木層や亜高木層はアカガシ、ウラジロガシ、イスノキ、モミ、ヤマグルマ、マテバシイ、ヤブニツケイ、ヤブツバキ、サカキ、ヤマボウシ、シロダモ、スダジイ、タブノキなどの常在度が高い。低木層にはサザンカ、イヌガシ、ハイノキ、ミヤマシキミ、シキミ、イヌツゲ、ツクシドウダン、コックバネウツギ、イズセンリョウ、ネズミモチ、シラキ、アオキなどが常在的に優占している。草本層にはキッコウハグマ、シシガシラ、ホソバトウゲシバ、ヤブコウジ、エダウチチヂミザサ、ベニシダ、オオキジノオ、フユイチゴ、ヒメアリドウシなどが生育している。アカガシ群落はアカガシとミヤマシキミを標徴種または区分種としてミヤマシキミ-アカガシ群集にまとめられている。

9. シキミーモミ群落

大隅半島にはツガは分布していないがシキミーモミ群落として取り扱った。常緑針葉樹林のシキミーモミ群落は大隅半島では高隈山系や大隅山地の山々の海拔約800m以上の山頂帯にイスノキウラジロガシ群集やミヤマシキミ-アカガシ群集の上部に接して部分的にモミの優占する群落が成立している。高木層はモミ一種の林分もあるが多くはアカガシやウラジロガシ、イスノキなどが混生している。亜高木層はヤブツバキ、シキミ、アセビ、サカキ、カクレミノなどの常緑広葉樹やヤマボウシ、シラキ、ヒメシャラ、ウリハダカエデ、コミネカエデ、タンナサワフタギなどの落葉広葉樹、針葉樹のイヌカヤなどによって構成されている。低木層はシキミ、ミヤマシキミ、イヌガシ、サザンカ、ネズミモチ、イヌツゲ、コバノガマズミ、コバノミツバツツジ、ハイノキなどが、草本層はシシガシラ、キッコウハグマ、ミヤマスマレ、ヤブタバコ、ホソバトウゲシバ、ヤブコウジ、ナルコユリなどが生育している。モミ群落はモミ、カヤ、シキミ、アセビ、イヌカヤ、ヒイラギ、キッコウハグマ、ミヤマシキミ、ツクバネガシを標徴種としてシキミーモミ群集にまとめられている。

10. 低木林群落

(1) 山頂性風衝低木林

高山地の山頂帯や稜線帯は常緑広葉樹と落葉広葉樹の混生する低木または亜高木状の群落が発達している。常緑樹種はアセビ、イヌツゲ、シキミ、ハイノキ、イヌガシ、ミヤマシキミ、ノリウツギ、ツタウルシ、コックバネウツギ、オンツツジ、コンテリギ、コバノガマズミ、キガンピ、タンナサワフタギなどによって構成されている。モミやアカガシなどが混生している林分もある。山頂帯に生育しているモミの多くが枯死しているのが認められる。数十年にわたって大きく生長してきたものがなぜ枯死することになったのか原因は不明である。

(2) 海岸風衝低木群落

海岸の岩崖地や岬の先端部などの表層土壌の発達が悪く、乾燥した風衝の立地にマサキ、トベラ、シャリンバイ、ハマビワ、ハマヒサカキなどを主要構成種とする海岸風衝低木群落が発達している。

ア. オニヤブソテツ-ハマビワ群集

オニヤブソテツ-ハマビワ群集はハマビワ、オオムラサキシキブ、サツマサンキライ、ハマヒサカキを標徴種として西南日本に分布する群落である。大隅半島では佐多岬、伊座敷、尾波瀬、佐多枇榔島などで調査された。低木層にはハマビワ、トベラ、マルバグミ、シャリンバイ、ハマヒサカキ、ネズミモチ、マサキ、マルバニッケイ、モクダチバナ、ハマサルトリイバラなどが優占して群落の主要構成種となっている。下層にはノシラン、ヒゲスゲ、サツマスゲ、オニヤブソテツ、アオノクマタケラン、ツワブキなどが生育している。林分によってはハマヒサカキトベラ優占群落やシャリンバイトベラ優占群落などとなっている。

イ. トベラーウバメガシ群集

トベラーウバメガシ群集はウバメガシを標徴種とし、トベラ、オオバグミ、ヒトツバ、シャリンバイ、コバノタツナミを区分種として本州の伊豆半島以西の太平洋沿岸、四国、九州に分布する群落である。大隅半島では間泊、佐多岬、辺塚、郡など佐多岬の半島部から太平洋沿岸に分布している。低木層はウバメガシ、シャリンバイ、トベラ、モッコク、タイミンタチバナ、シャシャンボ、ネズミモチ、マサキ、ハマヒサカキ、ハマビワなどが優占して見られる。下層にはホソバワダン、ハチジョウススキ、キキョウラン、ツワブキ、ヒトツバ、コバノタツナミソウ、アオスゲなどが常在的に生育している。高木層にクロマツが優占して相観的にクロマツ林と見えるウバメガシ林も佐多町尾波瀬で調査された。

ウ. ホソバワダン-マルバニッケイ群集

ホソバワダン-マルバニッケイ群集はマルバニッケイ、ホソバワダン、ハマカンゾウを標徴種として九州南部からトカラ列島にかけて分布している。大隅半島では太平洋側の郡付近や佐多岬などに断片的にウバメガシと混生しているのが認められるが、ホソバワダン-マルバニッケイ群集としては錦江湾側の南部に発達しているのが認められる。波浪によって浸食された海岸の断崖地の稜線に沿って亜高木状に発達した群落が帯状に分布している。佐多町浮津では上層はマルバニッケイの他にリュウキュウチク、ハマビワ、トベラ、マサキ、シャリンバイなどが見られる。下層にはオニヤブソテツ、オニヤブマオ、ホソバワダン、ツワブキなどが生育している。

エ. ソテツ群落

ソテツは中国南部から沖縄、奄美大島を経て九州南部まで分布している。佐多町佐多岬、内

之浦町火崎，山川町長崎鼻，坊津町及び宮崎県都井岬の自生地はいずれもソテツ自生北限地として国の特別天然記念物に指定され保護されている。佐多岬の自生地では断崖地や急斜面などの土壤堆積の浅い乾燥した風衝地にトベラ，シャリンバイ，マルバニッケイ，マサキ，ネズミモチ，ハマビワ，マルバグミなどと混生し，下層にはヒゲスゲ，オニヤブソテツ，ホソバワダン，キキョウラン，ハマボス，カタバミ，ノジギク，クサスギカズラ，ハチジョウススキなどが生育する群落を形成している。

11. ビロウ群落

ビロウは台湾，沖縄，奄美大島をへて九州に分布する亜熱帯性植物で，大隅半島では志布志町枇榔島，佐多町枇榔島，佐多岬，辺塚等に群生地が残存している。特に志布志町枇榔島は枇榔島亜熱帯性植物群落として国の特別天然記念物として指定され保護されている。枇榔島では樹高が12m以上に生長し，高木層や亜高木層はビロウが純群落状に密生する林分も見られる。高木層や亜高木層にはモクダチバナ，フカノキ，ハマビワ，タブノキ，マテバシイなどが混生し，低木層にはマサキ，イヌビワ，フカノキ，ヤブツバキ，ネズミモチ，サツマサンキライなどが生育している。草本層はノシラン，ホソバカナワラビ，ヒゲスゲ，アオノクマタケラン，イシカグマ，ムサシアブミ，フウトウカズラ，テイカカズラ，ヘクソカズラ，シラタマカズラなどが常在的に生育している。ビロウ群落を構成する主要な種群を見るとムサシアブミータブノキ群集やアコウータブノキ群落の主要構成種群と共通の種群によって占められていてビロウ群落に特別な結びつきをする種群は認め難い。

12. 二次性落葉樹林

森林伐採跡地や耕作放棄地などには二次性の落葉高木林や低木林，マント群落などが発達する。主な種類としてアカメガシワ，カラスザンショウ，クサギ，イヌビワ，エゴノキ，ハゼノキ，タラノキ，ヌルデ，ネムノキ，ナンバンキブシ，エノキ，シマクロキ，センダン，カナクギノキなどの樹木類，クズ，ヤマノイモ，ナガバノモミジイチゴ，ムベ，アケビ，ナツフジ，ヘクソカズラ，カラスウリ，ノブドウ，エビヅル，コバノボタンズル，ツルウメモドキ，サルトリイバラなどの蔓植物などがある。これらが立地の諸条件に影響されて優占種群を異にする群落を形成している。

佐多町伊座敷にヘツカニガキ群落が発達している。ヘツカニガキは佐多町辺塚で発見されてこの名が付けられた植物で，九州中部や南部，四国南部，沖縄などに分布するが固体数が少なく，特殊な分布をする珍しい植物であり，貴重な群落である。この群落は耕作放棄地に発達したもので，樹高17m位に生長して純群落を形成している。低木層にはヘツカニガキの他にリュウキュウチク，イヌビワ，カジノキ，オオムラサキシキブなどが見られ，草本層にはアオノクマタケラン，ホシダ，ミゾシダ，オオバライチゴ，ツワブキなどが生育している。

13. 植林群落

(1) 常緑広葉樹植林

常緑広葉樹植林はクスノキ植林が主なものである。クスノキ植林はタブ林やシイ林の成立する地帯に小規模の群落で各地に断片的に見られる。鹿屋市鳴之尾牧場近くで亜高木層や低木層にタブノキ，ホソバタブ，ユズリハ，バリバリノキ，イズセンリョウ，タイミンタチバナ，ヤ

ツデ、ネズミモチなどの優占する群落が調査されている。

(2) 落葉広葉樹植林

クスギの植林は曾於地区のシラス台地を中心に各地に広く見られる。垂水市高峠付近にはケヤキの植林地がある。植林後40年前後経過しているものと見られ、生育状況も良好で、下層にはウリハダカエデ、ツクシヤブウツギ、ヤマアジサイ、ヤツデ、アオキなどが生育している。大隅湖への道路沿いにはオオバヤシャブシの植林やヤマハンノキの植林も見られる。

(3) 針葉樹植林

ア. スギ・ヒノキ植林

針葉樹植林の大部分はスギ・ヒノキ植林である。スギ・ヒノキは経済的価値が最も高く、昭和20年代から40年代にかけて大隅地方の常緑広葉樹の原生林を皆伐してスギ・ヒノキ植林地に変えた。スギは山腹斜面下部や谷状地の水分条件に恵まれた立地に、ヒノキは山腹斜面の上部や中部、尾根部などに植林されることが多い。かつては常緑広葉樹の原生林におおわれた肝属山地も現在は見渡す限りスギ・ヒノキ植林といっても過言ではない。

イ. クロマツ植林

大隅地方の沿海の低山地帯にはクロマツ林がかなり広い面積を占めている。自然生の林分も多いが、植林されたものもその後の管理が悪く、自然生のものか植林されたものか見分けにくい状態になっている。低山地帯のクロマツ群落はタブ林やシイ林の主要な群落構成種によって占められている。海岸地帯の急傾斜地のものの多くは自然生のものと見られ、下層は風衝低木群落の構成種群によって占められている。

志布志湾岸のくのに松原や錦江湾岸の浜田海岸などの砂丘後背地にクロマツ群落が見られる。自然生のクロマツ林に防砂防潮防風の目的で逐次的に補植管理して人工的に作られた松林である。従って、最内陸部のは幹の下部が砂で埋まって背丈の低い大木となっている。林内にはアラカシ、タブノキ、クスノキなどの常緑広葉樹が混生している。前線の砂丘に接する地帯には現在もクロマツの植林が継続されている。

14. 砂丘植物群落

志布志湾沿岸の砂丘地には前線帯にはハマグルマ、コウボウムギ、ハマヒルガオ、ハマニガナ、ハマボウフウ、グンバイヒルガオなどが生育し、ハマグルマーコウボウムギ群落やハマエンドウ群落、グンバイヒルガオ群落などが発達している。後方で砂の移動が止まってやや安定してくると、匍匐性低木のハマゴウやケカモノハシ、ハイキビ、コマツヨイグサ、チガヤ等が優占するケカモノハシーハマゴウ群落が発達し、アキグミ、テリハノイバラ、チガヤ、ススキ、オガルカヤ、ケカモノハシ、ハマエンドウなどが優占する落葉低木林のアキグミ群落に続いてクロマツ群落へと移行する。佐多町田尻の海岸にはナンゴクワセオバナ群落があり、ハマゴウ、ハイキビ、ツルモウリンカ、コヤブラン、ナワシロイチゴなどが混生している。

15. 海岸岩地植物群落

海岸の岩地や断崖地にはハチジョウススキ、オニヤブマオ、ボタンボウフウ、オニヤブソテツ、ヒゲスゲ、ノジギク、クサスギカズラ、ホソバワダン、ツワブキ、コヤブラン、キキョウラン、ハマボスなどによって構成されるホソバボタンーボタンボウフウ群落やノジギク群落などが発達している。佐多町竹之浦にはツメレンゲ群落が見られ、ノジギク、ボタンボウフウ、ハマベノギク、ホソバワダンなどが混生している。

(執筆：大野照好)

5 大隅の貝類相

(1) 陸・淡水産貝の調査の概要

① 榊田 長

1930年(昭和5年)7月10日, 枇榔島(志布志湾)で採集した陸貝6種を貝類学雑誌第1巻第5号に報告している。ヤマタニシ, アツブタガイ, アズキガイ, ギュリキギセル, コベソマイマイ, ツクシマイマイ

② 波部忠重

1949年(昭和24年)7月22~25日, 伊座敷→大泊→田尻→佐多岬で採集した陸貝を貝類学雑誌第17巻第4号(1953)に「九州最南端佐多岬の陸産貝類」として報告している。この時, 伊座敷から大泊までの山中で採集した殻高2.2mm, 殻径1.2mmのゴマガイをサタノミサキゴマガイ *Diplomma tina* (*Sinica*) *satanomisakiensis* Habe, 1953として記載している。オオスミヤマキサゴ, ヤマタニシ, ヤマクルマ, アツブタガイ, サツمامシオイ, キュウシュウゴマガイ, サタノミサキゴマガイ, ホソキセルモドキ, ヤクシマシトラ, コシタカシトラ, ヤクシマヒメベッコウ, タカキビ, サツマヒメカサキビ, *Nippon ochlamys* sp., ウラジロベッコウ, アラナミギセル, ギュリキギセル, ナミハダギセル, カタギセル, コベソマイマイ, シメクチマイマイ, ダコスタマイマイ, ツバキカドマイマイ, チャイロマイマイ, コハクオナジマイマイ, ウスカワマイマイ, ツクシマイマイ, タワラガイ以上29種。

③ 曾於陸産貝写真図鑑(第1集)(1963)

ツクシマイマイほか14種の陸貝が収録されている。

④ 曾於陸産貝写真図鑑 淡水・陸産編(第2集)(1964)

淡水産7種, 陸産22種が収録されている。

⑤ 魚住賢司

ア 1971年(昭和46年)10月30日, 志布志でヤマクルマ, コハクガイ, ツクシマイマイ, タケノコカワニナ(安楽川)を採集。

イ 1972年(昭和47年)8月21日, 枇榔島(志布志湾)でヤマタニシ, ヤマクルマ, アズキガイ, アラナミギセル, ギュリキギセル, シイボルトコギセル, コベソマイマイ, ツクシマイマイを採集。

ウ 同年8月23日, 根占町・今嶽神社でヤマクルマ, アズキガイ, アラナミギセル, ギュリキギセル, スグヒダギセルを採集。

エ 1982年(昭和57年)6月, 高隈山にてタブキギセル, クマドリオトメマイマイを採集。

オ 1988年(昭和63年)3月23日, 内之浦町南方にてヤマクルマ, キュウシュウゴマガイ, タワラガイを採集。

⑥ 川村勝利

ア 1981年(昭和56年)5月31日, 鹿屋市田崎町・田貫神社にてスグヒダギセルを採集。

イ 同年9月20日, 高山町・甫与志岳にてアラナミギセル, カタギセル, ナミハダギセル, タブキギセルを採集。

⑦ 山本愛三・坂下泰典・魚住賢司

1986(昭和61年)年5月4~6日, 佐多町伊座敷~大泊にてヤマタニシ, ヤマクルマ, アツブタ

ガイ、アズキガイ、サツمامシオイ、キュウシュウゴマガイ、ナミハダギセル、カタギセル、シリオレギセル、ギュリキギセル、アラナミギセル、タワラガイ、シメクチマイマイ、コベソマイマイ、ツバキカドマイマイ、ダコスタマイマイ、チャイロマイマイを採集。

⑧ 行田義三

ア 1993年(平成5年)8月5日、志布志にてコハクガイ、カワザンショウガイ、カシノメガイ、ハマシイノミガイ、マクスジコミミガイを採集。

イ 1995年(平成7年)7月29日、吾平町・吾平山陵にてヤマクルマ、アズキガイ、キュウシュウゴマガイ、ナミハダギセル、ヒダリマキゴマガイ、アラナミギセルを採集。

ウ 1996年(平成8年)5月11日、鹿屋市公民館周辺にてヤマタニシ、ヤマクルマ、アズキガイ、ギュリキギセル、ヤマナメクジ、ツクシマイマイ、シメクチマイマイを採集。

エ 同年8月9日、田代町東大原の川でカワニナ、花瀬のマス釣り場付近でカワニナ、ツクシマイマイ、キュウシュウゴマガイ、ヒゼンオトメマイマイ、南風谷でタブキギセル、キュウシュウゴマガイ、ツクシマイマイを採集。

オ 同年8月24日、吾平山陵でヤマクルマ、アツブタガイ、アズキガイ、アラナミギセルを採集。

カ 同年11月28～29日、伊座敷～郡にて採集。

◇伊座敷・大山祇神社—ヤマクルマ、コハクオナジマイマイ

◇島泊——ヤマタニシ、アラナミギセル、ギュリキギセル、サツマオカチョウジ、ウスカワマイマイ、ツバキカドマイマイ、ツクシマイマイ

◇大泊——アラナミギセル

◇田尻——ヤマクルマ、アツブタガイ、アラナミギセル、ギュリキギセル、コハクオナジマイマ

◇尾波瀬——チャイロマイマイ

◇外之浦——ヤマクルマ、アズキガイ、サツマオカチョウジ、アラナミギセル、ギュリキギセル、コハクオナジマイマイ

◇郡——アズキガイ、サツマオカチョウジ、アラナミギセル

キ 29日、根占町宮浜でヤマタニシ、ヤマクルマ、コハクオナジマイマイを採集。

(2) 大隅産陸・淡水貝類(稲尾岳産を除く)

[]内は県内, []内は全国の分布。

貝写(1)…曾於陸産貝写真図鑑(第1集)(1963)

貝写(2)…曾於陸産貝写真図鑑 淡水・陸産編(第2集)(1964)

① 陸貝

a) ゴマオカタニシ科

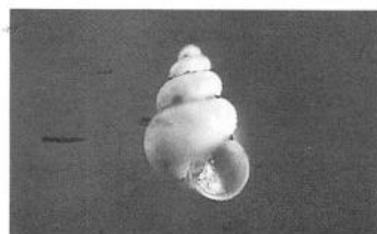
ゴマオカタニシ

(採集地) 佐多町

[鹿児島市, 奄美大島]

[本州(関東・北陸以西), 四国, 九州

(天草・男女群島を含む), 八重山諸島]



ゴマオカタニシ

b) ヤマキサゴ科

オオスミヤマキサゴ

(採集地) 伊座敷～大泊

[沖秋日島, 宇治群島, 口之島, 平島, 喜界島]

[宮崎県南郷町・大島, 佐多町, トカラ列島]

c) ヤマトニシ科

ヤマトニシ

(採集地) 伊座敷～大泊, 島泊, 根占町宮浜, 鹿屋市公民館周辺, 枇榔島(志布志湾)

[県本土全域, 甌島, 草垣群島, 種子島, 屋久島, 口永良部島, 口之島]

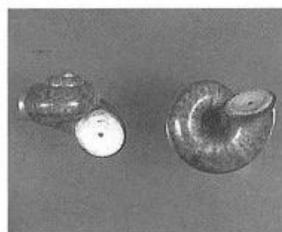
[本州(関東以西), 四国, 九州]

アツブタガイ

(採集地) 伊座敷～大泊, 田尻, 吾平山陵, 枇榔島(志布志湾)

[県本土全域]

[本州(関東以西), 四国, 九州]



アツブタガイ

d) ヤマクルマ科

ヤマクルマ

(採集地) 伊座敷～大泊, 田尻, 吾平山陵, 枇榔島(志布志湾), 佐多町外之浦, 鹿屋市公民館周辺, 伊座敷・大山祇神社, 根占町・今嶽神社, 志布志

[県本土全域, 甌島]

[本州(近畿以西), 四国, 九州]

e) アズキガイ科

アズキガイ

(採集地) 伊座敷～大泊, 田尻, 吾平山陵, 枇榔島(志布志湾), 根占町・今嶽神社, 鹿屋市公民館周辺, 佐多町郡

[県本土全域, 種子島, 屋久島, 口永良部島, 口之島, 中之島]

[本州(長野県以西), 四国, 九州(対馬を含む)]

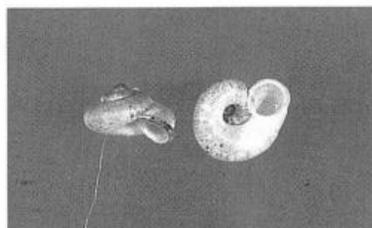
f) ムシオイガイ科

サツمامシオイ

(採集地) 伊座敷～大泊

[県本土全域]

[九州]



サツمامシオイ

g) ゴマガイ科

キュウシュウゴマガイ

(採集地) 伊座敷～大泊, 吾平山陵, 田代町花瀬, 南風谷, 内之浦町南方

[県本土全域]

[山口県, 四国, 九州]

ヒダリマキゴマガイ

(採集地) 吾平山陵

〔県内で吾平山陵以外の記録はない。〕

〔北海道, 四国, 九州, 八丈島〕

サタノミサキゴマガイ

(採集地) 伊座敷~大泊

〔佐多町特産種〕

h) カワザンショウガイ科

ヘソカドガイ

(採集地) 佐多町

〔種子島, 臥蛇島〕

〔本州(房総以西), 四国, 九州〕

カワザンショウガイ

(採集地) 志布志

〔県本土全域〕

〔北海道南部以南, 本州, 四国, 九州, 沖縄〕

i) オカミミガイ科

カシノメガイ

(採集地) 志布志

〔県本土全域, 宝島, 喜界島, 奄美大島, 沖永良部島, 与論島〕

〔本州(紀伊半島以南), 四国, 九州, 男女群島, 奄美, 沖縄〕

ハマシイノミガイ

(採集地) 志布志

〔屋久島, 黒島, 宝島, 奄美群島〕

〔本州(房総以南), 四国, 九州, 薩南諸島, 奄美, 沖縄〕

マキシジコミミガイ

(採集地) 志布志

〔屋久島, 奄美大島, 徳之島, 沖永良部島〕

〔本州(三浦半島以南), 四国, 九州, 奄美, 沖縄〕

j) キセルモドキ科

ホソキセルモドキ

(採集地) 伊座敷~大泊

〔東町山門野, 下甌島〕

〔四国(徳島県), 九州(壱岐, 対馬を含む)〕

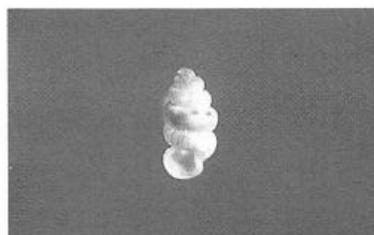
k) キセルガイ科

ナミハダギセル

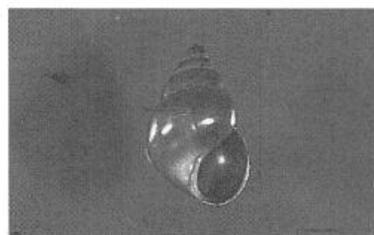
(採集地) 伊座敷~大泊, 吾平山陵, 高山町・甫与志岳

〔霧島町霧島神宮, 川辺町〕

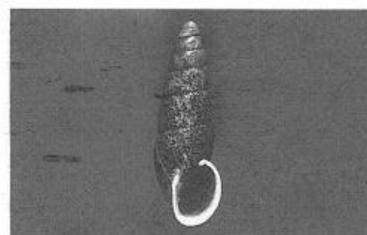
〔九州南部(宮崎県, 鹿児島県)〕



ヒダリマキゴマガイ



ヘソカドガイ



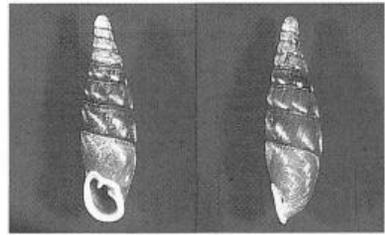
ホソキセルモドキ

カタギセル

(採集地) 伊座敷～大泊, 高山町・甫与志岳,
田代町南風谷

[霧島, 喜入町中名]

[九州南部(宮崎県を含む)]



カタギセル

タブキギセル

(採集地) 高山町・国見山, 甫与志岳, 鹿屋市・高隈山

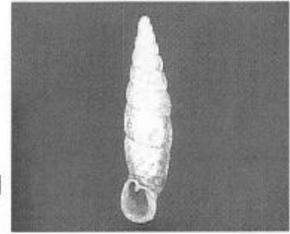
[本種は大隅半島南部の特産種]

スグヒダギセル

(採集地) 鹿屋市田崎町・田貫神社

[阿久根市牛之浜, 出水市下平野, 下甌島, 根占町・今嶽神社]

[本州, 四国, 九州(五島を含む)]



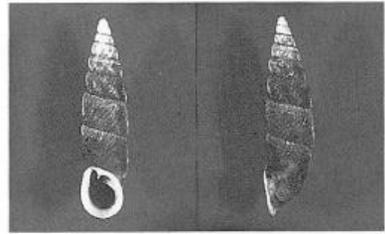
スグヒダギセル

シイボルトコギセル

(採集地) 枇榔島(志布志湾)

[蒲生町・蒲生神社, 鹿児島市城山, 磯公園,
指宿市指宿神社, 甌島]

[本州(新潟県南部, 伊豆半島西部以西, 隠岐島を
含む), 四国, 九州(対馬を含む)]



シイボルトコギセル

ギュリキギセル

(採集地) 伊座敷～大泊, 田尻, 枇榔島(志布志湾), 根占町・今嶽神社, 鹿屋市公民館周
辺, 佐多町島泊, 田尻, 外之浦

[出水市, 薩摩町黒島, 阿久根市, 串木野市・深田神社, 野田町野田, 鹿児島市城山, 慈
眼寺, 開聞町・枚聞神社, 山川町山川, 知覧町知覧, 松ヶ浦, 坊津町・沖秋目島, 上甌島]

[大阪府南部, 九州中南部]

アラナミギセル

(採集地) 伊座敷～大泊, 田尻, 枇榔島(志布志湾), 根占町・今嶽神社, 佐多町島泊, 田
尻, 外之浦, 郡, 吾平山陵, 高山町・甫与志岳

[川内市・可愛山陵, 宮之城町泊野, 開聞町・枚聞神社]

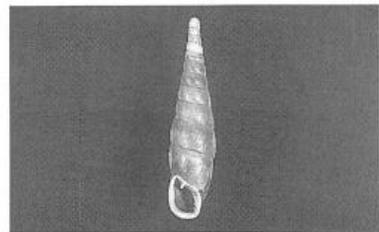
[大分県, 宮崎県, 鹿児島県]

シリオレギセル

(採集地) 伊座敷～大泊

[宮之城町・紫尾山]

[本州(近畿以西, 紀伊半島を除く), 四国,
九州(壱岐, 五島を含む)]



シリオレギセル

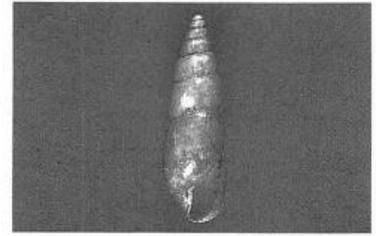
l) オカクチキレガイ科

サツマオカチョウジ

(採集地) 佐多町郡, 島泊, 外之浦

[開聞岳, 種子島, 屋久島, 臥蛇島, 平島, 悪石島]

[本州, 九州]



サツマオカチョウジ

m) ナメクジ科

ヤマナメクジ

(採集地) 鹿屋市公民館周辺

[下甌島, 宇治群島, 竹島, 黒島, 屋久島, 口永良部島, 口之島, 中之島, 平島, 諏訪之瀬島, 悪石島, 小宝島, 奄美大島, 徳之島]

[本州, 四国, 九州(対馬を含む)]

n) ベッコウマイマイ科

サツマヒメカサキビ

(採集地) 伊座敷~大泊

[山川町山川, 枕崎市, 佐多町]

[他県からの報告はない。]

タカキビ

(採集地) 伊座敷~大泊

[県内で伊座敷~大泊以外の記録はない。]

[本州(関東以西), 四国, 九州]



タカキビ

ヤクシマヒメベッコウ

(採集地) 伊座敷~大泊

[屋久島]

[本州, 四国, 九州]

コシタカシタラ

(採集地) 伊座敷~大泊

[屋久島]

[本州, 四国, 九州(男女群島, 壱岐, 対馬を含む)]



コシタカシタラ

ヤクシマシタラ

(採集地) 伊座敷~大泊

[屋久島]

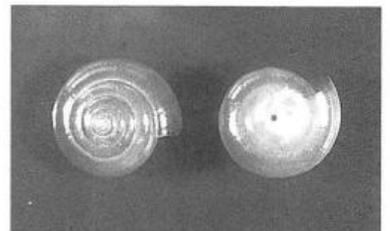
[九州(対馬を含む)]

ウラジロベッコウ

(採集地) 伊座敷~大泊

[本県で伊座敷~大泊以外の記録はない。]

[本州, 四国, 九州]



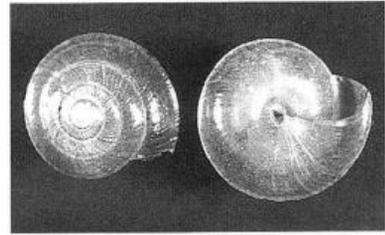
ウラジロベッコウ

レンズガイ

(採集地)

[県本土全域]

[関東地方(箱根, 三浦半島), 静岡県(静岡・沼津・御殿場), 九州全域]



レンズガイ

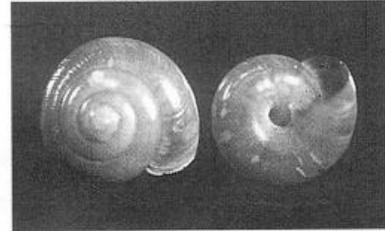
o) コハクガイ科

コハクガイ

(採集地) 志布志

[黒島]

[本州, 四国, 九州, 沖縄]



コハクガイ

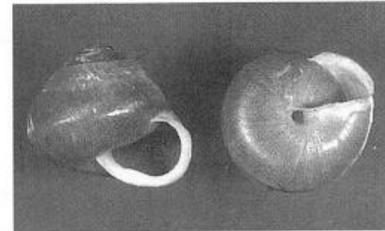
p) ナンバンマイマイ科

シメクチマイマイ

(採集地) 伊座敷～大泊, 鹿屋市公民館周辺

[下甌島]

[本州(三重県以西), 四国, 九州]



シメクチマイマイ

コベソマイマイ

(採集地) 伊座敷～大泊, 枇榔島(志布志湾)

[県本土全域, 下甌島]

[本州(関東西部以西), 四国, 九州(対馬を含む)]

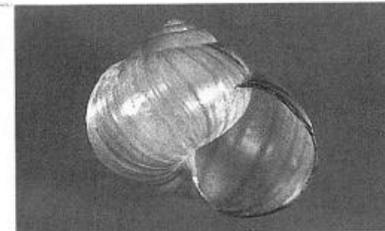
q) オナジマイマイ科

ウスカワマイマイ

(採集地) 伊座敷～大泊, 島泊

[県本土全域, 甌島]

[本州, 四国, 九州]



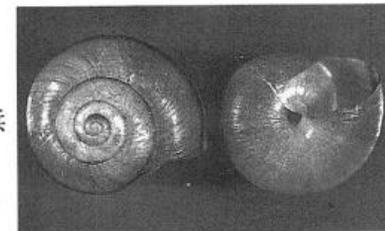
ウスカワマイマイ

コハクオナジマイマイ

(採集地) 伊座敷～大泊, 伊座敷・大山祇神社,
佐多町田尻, 外之浦, 根占町宮浜

[種子島, 屋久島, 竹島, 硫黄島, 黒島]

[九州(壱岐, 対馬, 五島を含む)]



コハクオナジマイマイ

ツクシマイマイ

(採集地) 伊座敷～大泊, 鹿屋市公民館周辺, 枇榔島(志布志湾), 志布志, 島泊, 田代町
花瀬

[県本土全域, 甌島, 種子島]

[四国(愛媛県), 九州]

キリシマイマイ

(採集地) 枇榔島(志布志)

[霧島山(丸尾滝, 大浪池付近)]

[宮崎県]

チャイロマイマイ

(採集地) 伊座敷~大泊, 佐多町尾波瀬

[宇治群島, 竹島, 硫黄島, 黒島, 種子島, 屋久島, 口永良部島, 口之島, 中之島, 臥蛇島, 諏訪之瀬島, 悪石島]

クマドリオトメマイマイ

(採集地) 高隈山

[県内で高隈山以外の記録はない。]

[四国(西南部), 九州(大分県)]

ヒゼンオトメマイマイ

(採集地) 田代町花瀬

[県内で稲尾岳, 田代町花瀬以外の記録はない。]

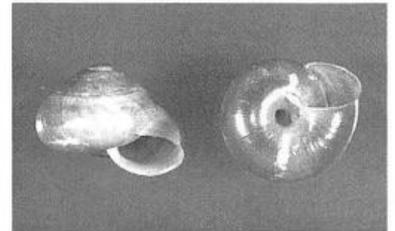
[九州全域]

ダコスタマイマイ

(採集地) 伊座敷~大泊

[霧島, 始良町重富, 薩摩町, 宮之城町五日町, 樋脇町市比野, 川内市, 指宿市]

[九州(大分県, 熊本県, 宮崎県, 鹿児島県)]



ダコスタマイマイ

ツバキカドマイマイ

(採集地) 伊座敷~大泊, 島泊

[屋久島, 口永良部島, 口之島, 中之島]

[伊豆諸島(大島~八丈島)]

アラハダヒロベソマイマイ

(採集地) 串良町城山

[大隅半島(高山, 根占), 種子島(西之表)]

[和歌山県南部, 鹿児島県]



タワラガイ

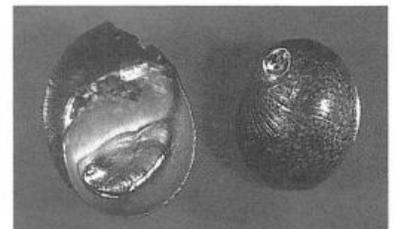
r) タワラガイ科

タワラガイ

(採集地) 伊座敷~大泊, 内之浦町南方

[宇治群島, 屋久島, 奄美大島]

[本州(関東以西), 四国, 九州]



イシマキガイ

② 淡水貝

a) アマオブネ科

イシマキガイ

(採集地) 佐多町島泊, 外之浦, 郡

[甌島, 南西諸島]

[本州, 四国, 九州]

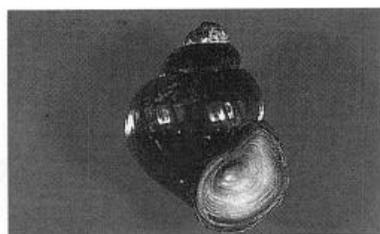
b) タニシ科

マルタニシ

(採集地) 曾於郡内各地(貝写2)

[県本土全域, 甌島, 南西諸島]

[北海道, 本州, 四国, 九州]



マルタニシ

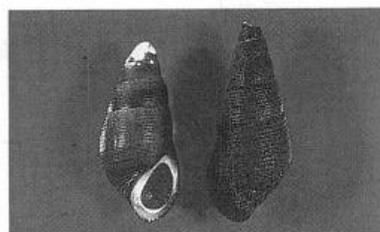
c) カワニナ科

カワニナ

(採集地) 田代町花瀬, 東大原, 曾於郡内各地

[県本土全域, 甌島, 南西諸島]

[北海道, 本州, 四国, 九州]



カワニナ

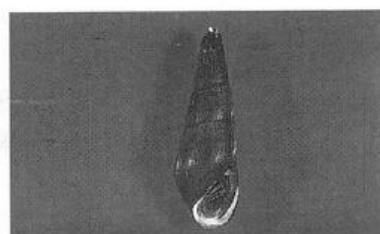
d) トウガタカワニナ科

タケノコカワニナ

(採集地) 志布志・安楽川

[鹿児島市・永田川]

[本州(関東以南), 四国, 九州]



タケノコカワニナ

e) モノアラガイ科

モノアラガイ

(採集地) 曾於郡内各地(貝写2)

[県本土全域]

[北海道, 本州, 四国, 九州]



モノアラガイ

ヒメモノアラガイ

(採集地) 曾於郡内各地(貝写2)

[県本土全域, 南西諸島, 上甌島]

[北海道, 本州, 四国, 九州, 琉球列島]



ヒメモノアラガイ

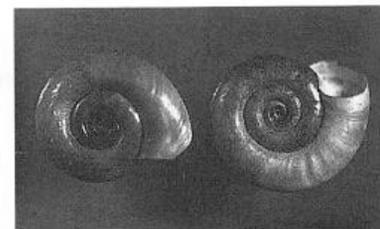
f) ヒラマキガイ科

ヒラマキミズマイマイ

(採集地) 大隅町岩川, 財部町財部, 大崎町大崎

[県本土全域, 南西諸島]

[北海道, 本州, 四国, 九州, 琉球列島]



ヒラマキミズマイマイ

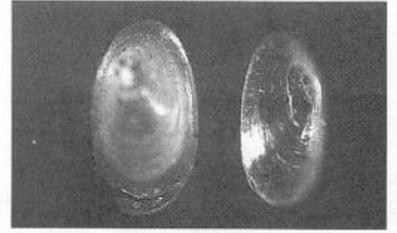
g) カワコザラ科

カワコザラ

(採集地) 大隅町岩川

[下甌島, 奄美大島, 請島, 徳之島]

[本州, 四国, 九州]



カワコザラ

h) イシガイ科

ドブガイ

(採集地) 大崎町菱田, 有明町通山

[鹿児島市]

[北海道, 本州, 四国, 九州, 台湾]



マシジミ

i) シジミ科

マシジミ

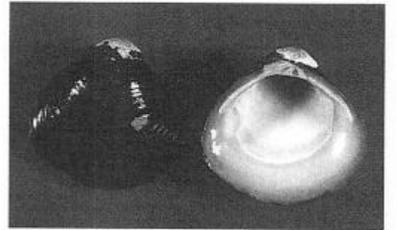
(採集地) 下財部用水路, 笠木用水路, 大崎町菱田,

有明町通山, 大隅町平木池, 大崎町,

田原川

[県本土全域, 奄美大島]

[本州(青森県以南), 四国, 九州]



ヤマトシジミ

ヤマトシジミ

(採集地) 菱田駅下小川

[川内川河口]

[北海道, 本州, 四国, 九州]

(3) 鹿児島県を模式産地とする大隅産の貝

① サツمامシオイ

Chamalycaeus satsumanus satsumanus (Pilsbry, 1903) 模式産地 鹿児島市

② キュウシュウゴマガイ

Diplommatina (Sinica) tanegashimae kyushuensis Pilsbry & Hirase, 1904

模式産地 鹿児島市

③ サタノミサキゴマガイ

Diplommatina (Sinica) satanomisakiensis Habe, 1953 模式産地 佐多町佐多岬

④ アラナミギセル

Tyrannophaedusa (Tyrannophaedusa) oxycyma (Pilsbry, 1902)

模式産地 鹿児島市

⑤ カタギセル

Mesophaedusa interlamellaris (Martens, 1876)

模式産地 霧島

⑥ ナミハダギセル

Mesophaedusa cymatodes (Pilsbry, 1905)

模式産地 田代町

⑦ タブキギセル

Mesophaedusa tabukii Kuroda & Minato, 1985

模式産地 高山町・国見山

- ⑧ ギュリキギセル
Phaedusa (Breviphaedusa) addisoni (Pilsbry, 1901) 模式産地 鹿児島
- ⑨ ヤクシマヒメベッコウ
Discoconulus yakuensis (Pilsbry, 1902) 模式産地 屋久島
- ⑩ ヤクシマシタラ
Parasitala osumiensis Thiele, 1931 模式産地 屋久島
- ⑪ ダコスタマイマイ
Trishoplita dacostae dacostae Gude, 1900 模式産地 鹿児島
- ⑫ コハクオナジマイマイ
Bradybaena pellucida Kuroda & Habe, in Habe, 1953 模式産地 佐多岬
- ⑬ キリシママイマイ
Euhadra herklotsi kirishimensis Kuroda, 1936 模式産地 牧園町丸尾滝

(4) 大隅半島の特産種

- ① サタノミサキゴマガイ *Diplommatina (Sinica) satanomisakiensis* Habe, 1953
佐多町
- ② タブキギセル *Mesophaedusa tabukii* Kuroda & Minato, 1985
高山町・国見山, 甫与志岳, 鹿屋市・高隈山

(5) 分布上特記すべき種

① ツバキカドマイマイ

喜界島で化石が見つかっており、トカラ(口之島, 中之島), 大隅諸島(屋久島, 口永良部島), 大隅半島最南端(佐多町), 伊豆諸島(八丈島, 青ヶ島, 三宅島)に分布している。海流によって南から運ばれ佐多岬付近に上陸したものと思われる。

② チャイロマイマイ

本種も前種同様喜界島で化石が見つかっており、トカラ(悪石島, 諏訪之瀬島, 臥蛇島, 中之島, 口之島), 大隅諸島(口永良部島, 屋久島, 種子島), 竹島, 硫黄島, 黒島, 草垣群島, 宇治群島, 大隅半島最南端(佐多町)に分布している。分布圏が佐多町にかかっていることは前種と同じ要因が考えられる。

③ オオスミヤマキサゴ

本種も前2種と同様の分布パターンを示しており、喜界島, 平島, 口之島, 宇治群島, 沖秋目島, 大隅半島最南端(佐多町)さらに北上して宮崎県南郷町・大島まで分布を広めている。

④ オオスミウロコマイマイ

この貝の名前は「かごしま貝類散歩」植之原道義著(1979)に出ているので、原文のまま引用する。

「昭和12年6月, 肝属郡申良町柏原小学校に勤務していた須田高德先生は, 近くの海岸でおぼれかかっている児童に気づき, 服を着たまま海にとびこみ, その3名を救助して, 遂に力尽き殉職された。同先生の遺徳をたたえる記念の像が, 今, 同校の校庭に建立されている。須田先生をたたえる歌の第4節に『オオスミウロコマイマイは 学びの誉れ伝うれど かえらぬ人となりはてて 御魂は天に上りたり』……がある。

それではオオスミウロコマイマイが、どうして須田先生頌徳の歌にはいつているのかそれには次のような事実がある。

昭和10年、天皇陛下が鹿児島においでになると、県下の貝類を採集してお目にかけることになった。そのとき須田先生が勤務地の串良町城山で採集されたカタツムリに、黒田博士が新種としてオオスミウロコマイマイの名をつけられたのである。すなわち、先生はこの貝の発見者なので、学びの誉れとして歌によみこまれたわけである。

この貝は県下他の地域に普通にいるフリイデルマイマイと同じ仲間である。直径1.5cm。平たく巻いているので腹面からみると大べそにみえる。また、ウロコマイマイの名があるように殻の表面はごくきめの細かいひだを立てたようであざあざしている。城山のような樹木下の落葉に埋もれて生活する。」

以上の記述の外、背面・腹面・側面それにひだ状の殻皮の図が添えてある。文献を調べてみたら、日本非海産貝類目録（黒田、1963）にオオスミウロコマイマイ *Aegista osumiensis* Kuroda (MS) はアラハダヒロベソマイマイ *Aegista proba proba* (A.Adams, 1868)の亜種としてあった。

《参考文献》

- 東 正雄.1995. 原色日本陸産貝類図鑑[増補改訂版]. X VI 343pp. 80図版, 保育社, 大阪
井出口龍哉. 1991. トカラ列島(鹿児島郡十島村)・平島の陸産貝. 県立博物館研究報告(第10号)
神田正人. 1992. 大分県陸産貝類誌. 84pp. 33図版, 佐伯印刷, 大分
黒田徳米. 1963. 日本非海産貝類目録. 70pp. 日本貝類学会, 東京
富山清升. 1983. トカラ列島・口永良部島の陸産貝類相. 南紀生物, 25(2):183-190, 和歌山
富山清升. 1984. 宇治群島向島の陸産貝類相. *Venus*, 43(3):199-210, 日本貝類学会
波部忠重. 1949. 九州地方陸産貝類採集記. ゆめ蛤, 45, 目八天狗社
波部忠重. 1953. 九州最南端佐多岬の陸産貝類. 貝類学雑誌, 17(4):202-207, 日本貝類学会
肥後俊一・後藤芳央. 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. 886pp. エル貝類出版, 大阪
榊田 長. 1930. 南九州枇杷島に於ける陸棲介類小見. *Venus*, 1(5):193-194, 日本貝類学会
湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 294pp. 同目録刊行会. 和歌山
湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 211pp. 74図版, 日本貝類学会, 東京
行田義三. 1989. 三島村の貝. 九州の貝, 27-38, 九州貝類談話会
行田義三. 1995. 下甕島の貝類相. 北薩の自然, 159-172, 鹿児島県立博物館
行田義三. 1996. 徳之島の貝類. 奄美の自然, 145-152, 鹿児島県立博物館

(執筆者：行田義三)